



# 多様性が生み出した 「アメリカ音楽」の魅力



## 「カントリー・ミュージック」

ヨーロッパ系移民が持ち込んだ音楽に、アフリカ系アメリカ人の音楽がミックスされて生まれた「カントリー・ミュージック」は、ジャズと並ぶ多様性を感じる音楽です。

### アメリカの白人音楽の象徴

1920年代に発祥したとされる「カントリー(カントリー・ミュージック)」は、北アメリカの南北に延びるアパラチア山脈の南方で暮らした、イギリス系移民の持ち込んだ民謡やバラッドといった音楽がベースになっています。そこでは、アフリカ系アメリカ人との交流もあり、ゴスペルやブルースといった音楽の影響も強く受けています。1930年代からは、白人労働階級の音楽として発展し、現代でもなおアメリカ南部を中心に多くのファンがいます。

カントリーという名称が定着するのは、1940年代に入ってからです。それまでは、「アパラチアン・ミュージック」や「マウンテン・ミュージック」、「ヒルビリー」、「カントリー&ウエスタン」などと呼ばれていました。

### カントリーの音楽的特徴

カントリーは、比較的シンプルなハーモニーで、日常を歌にしたものから流行歌まで、幅広い音楽性を持っています。音楽的特徴としては、ギターやベース、ドラムのバンドの基本的な使用楽器とともに、弦楽器を多用することが挙げられます。カントリーの楽器といえば、フィドル、バンジョー、ギターです。フィドルとは、ヴァイオリンのことですが、カントリーやフォーク、民族音楽といったクラシック以外の音楽で用いられる場合には、フィドルと呼ばれています。



#### カントリーのミュージシャン

##### ジミー・ロジャーズ(1897 - 1933)

初期のカントリーミュージックの創始者と呼ばれるジミー・ロジャーズは、ブルースにスイスのヨーデルを組み合わせた「ブルーヨーデル」という独特の歌唱法で広く知られています。活躍した期間こそ、1920年代後半から急逝した1933年までと長くはないのですが、その後発展していくアメリカのロックやポップスシーンに、大きな影響を与えました。

##### ウィリー・ネルソン(1933 -)

1975年に、『Blue Eyes Crying in the Rain』でビルボード誌カントリー・チャート1位を獲得して以来、数々のヒット曲を放ったウィリー・ネルソンは、カントリー音楽シーンを中心に常に第一線の活動を続けています。フォークやロック、R&B、ジャズのミュージシャンと交流し、カントリーに留まらない楽曲を多数発表し、アメリカを代表するアーティストとして広い支持を受けています。



#### カントリーの名曲

##### TAKE ME HOME, COUNTRY ROADS

アメリカのシンガーソングライター、ジョン・デンバーの歌唱による1971年のヒット曲です。1974年には、オリビア・ニュートン＝ジョンがカバーし、日本のオリコン洋楽チャートで15週連続1位を獲得しました。日本語のカバーでは、アニメ映画『耳をすませば』の挿入歌『カントリーロード』として知る人も多いのではないのでしょうか。

##### You Are My Sunshine

1939年に録音された『You Are My Sunshine』は、カントリー・ミュージックの定番として歌い継がれている曲です。歌手であり、後にルイジアナ州知事となったジミー・デイビスと作曲家のチャールズ・ミッチェルの共作とされていますが、作曲については諸説あるようです。ナット・キング・コールやレイ・チャールズなど多くのアーティストがカバーし、日本でもTVCMなどで耳にする機会が多い曲です。



知識

#### カントリー・ミュージックの 誕生地

アメリカ合衆国バージニア州にある独立市「プリストル」は、1998年に同国議会の決議により、「カントリー・ミュージックの誕生地」と認められています。1927年に音楽ディレクターのライフ・ピアが、地元ミュージシャンの新人発掘オーディションを行い、後にカントリーの元祖と呼ばれるようになるカーター・ファミリーを録音デビューさせたのが、このプリストルなのです。市内には、「カントリーミュージック発祥の地ミュージアム」があり、カントリー・ミュージック発祥地連盟(BCMA)が結成され地域のカントリー・ミュージックの歴史の教育に尽力しています。

